

## 岩木川等大規模水害に備えた減災対策協議会(第5回協議会)

### 議事概要

- 日 時:令和元年 6月24日(月) 10時00分～12時00分
- 場 所:五所川原消防本部2階大会議室
- 委員出席:青森市長(代理:浪岡区長)、弘前市長(代理:総務部防災課長)、黒石市長(代理:総務課課長補佐)、五所川原市長、つがる市長(代理:総務部総務課長)、平川市長(代理:総務部長)、藤崎町長、板柳町長(代理:総務課消防防災係長)、鶴田町長(代理:総務課長)、中泊町長(代理:副町長)、田舎館村長、西目屋村長(代理:総務課長)、青森県県土整備部長(代理:河川砂防課課長代理)、青森県危機管理局长(代理:防災危機管理課長)、気象庁青森地方气象台長、国土交通省青森河川国道事務所長、国土交通省東北地方整備局岩木川ダム統合管理事務所長

#### ○議事

##### 1)取組状況について

- ①H30年度主な実施内容及び今後の取組予定について  
異議なし
- ②実施目標のフォローアップについて  
異議なし

##### ※情報提供

###### 「五所川原市長」

五所川原市では平成31年1月9日に、青森県防災危機管理課の指導のもと図上訓練を実施いたしました。そのときに自ら現場を垣間見て、「これは風水害が現実には起きたら対応できない」ということを実感いたしました。その旨を青森河川国道事務所長と話した際、トップフォーラムがあると伺い参加をさせていただきました。全国から9名の市長が参加して、災害にあっていないのは私と名寄市の市長、そのほかはすべての行政運営が災害を体験されており、行政運営をしている話を聞かさせていただきました。体験談の中で、皆さんもご存じだと思いますが、平成29年7月の九州北部豪雨で甚大な被害(このときの被害額は234億5700万円)を経験した、大分県日田市の原田市長が体験談を述べられて、山崩れによる土砂ダムの形成によって、すごい状況であったという事例を伺い、備えあれば憂

いなしということが分かりました。通常の被害を想定した危機管理ではダメなんだと、どの地域にでもこういう豪雨がくるんだというのがこれからの気象状況だということを前提にして、トップは危機管理に対する想像力をきちっと持つておかないと、この程度でいだろうという感覚をまず持たないでくれということを基本的に言われておりました。その中で危機管理の概念が二つあり、ただ危機管理ではなく危機を事前に対応するリスクマネジメントをきちっとまずやってくれということ、危機発生時緊急事態への対処法、要するにクライシスマネジメントがあるんだと、それが図上訓練。ですから、「日頃の危機管理と図上訓練等によるクライシスマネジメントをきちりわけて考えていかないと対応出来ませんよ。」という話をし、まず一つお願いしました。基本的な考え方としては危機発生の際に危機管理が上手いくかいかないかは、事前のリスクマネジメントがどれだけ出来てるかどうか、そしてそのリスクマネジメントで一番大事なものは想定外なものが起こるとい「想像力」これしかない。そのイメージーションを持っているか持っていないかによって全然対応力が違ってくるということをお聞きされて、私も津軽岩木川の沿川も、冒頭で青森河川国道事務所長がおっしゃった様に、万が一のことがあれば泣く泣く対応出来ないだろうと、それくらいの想定していく想像力が必要だということを感じてきましたのでここにおられる首長さん方を含め、連携して災害に対する対応が絶対必要だということを実感して帰ってきました。以上です。

「事務局」

大変ありがとうございます。貴重なお話ありがとうございました。

トップフォーラムの中でお話をご紹介頂きましたけども今日、御参加頂いております藤崎町長様、今の意見を含めまして何かありましたら一言お願いしたいと思います。

「藤崎町長」

どこの市町村でも、ここ数年あるいは長いスパンでは十数年、地震も水害も寒い地域ではそんなに大被害な災害は無かったですよね。ですから、ここに住む県民が有事の際に備えた、意識が薄れてきているとそう思っております。ただ、日本全体で見ても世界規模で見ても自然災害というのは、いつどこにあってもおかしくないような自然状況でございます。佐々木五所川原市長さんが話された様に必ず起きるとい様な意識をその市町村のトップがその担当の部下に指示を出してきめ細かな、防災訓練や図上訓練をやっているか、いざ有事の際に焦ってしまうのではないかとそう思っております。うちの町でも県とタイアップして本当に引き継げる様なその防災意識が大事だということを二回ほど過去やってございます。ただ、我が町の取り組みのちょっと少ないことはですね、年1回の大規模な防災訓練は500人規模でやっていたとしても、果たして有事の際に全町整然に避難できるかというところちょっと不安でございます。行政そして各団体、特に町内会、そして民生委員、児童委員とか全ての団体をいわゆる図上訓練もしくは防災訓練に参加させながら、いざ有事の際にいち早く命を守る、そういう風な意識を持った防災訓練になる様にと

で、担当課に指示を出しているところでございます。ソフト面では、各市町村でそれに備えた取り組みをしていると思いますけれども、まずはトップである首長の指揮権のもとに、きめ細かなくあってもおかしくないような図上訓練、そしてまた防災訓練をやる。それをまずこなさなければ大変なことになると思っております。5、6年前に九州八女市の田村市長さんの話を聞いた時にですね、一晩で何百ミリという集中豪雨が降ったが「うちの市は9割方、自主防災組織が整っているから人命救助、それが出来ていなかったら恐らく何十人単位、あるいは何百人単位で亡くなっていたかもしれない。」という様な話を聞いた印象の方が強く鮮明に残っております。こうしていられないという意識をまず持つことがソフトでは肝要とそう思います。それから昨年、岩木川の100周年事業で私も3km程、ゴムボートに乗って川下りして板柳の町長成田さん、鶴田の町長の相川さんもリレーで岩木川をずっと巡視しましたけれどもあまりにも川底の方が低いのでビックリして、そのボートから見た時に「まー、これだば上流でナンボあの津軽ダムが出来ても浅瀬石ダムがしっかり対応しても一晩で何十ミリ、あるいは何百ミリ降ったら、これはたまったもんでない。」と意識を持ってそのボートの船上でふとそう思いました。ですから今、予算も掛かりますけども一生懸命、河道掘削とか樹木伐採してますのでこれはですね、引き続き災害に備えてハード面でも国交省の職員の皆様には十分対応して頂く様、要望したいとそう思っております。以上です。

「事務局」

災害に対して危機感と命を守るためにきめ細かな訓練とかをやっていかなければならないという風な御主張とっております。

田舎館村の鈴木村長様、一言頂ければと思います。

「田舎館村長」

田舎館村では平川地域が非常に弱くこれが大きな氾濫ルート。あそこの2kmが丸呑みされるんじゃないかという警戒心を持っています。日頃からその集落の組織関係、それから村がどのようにして取り組んでいくかということについては、十分、話し合いの段階と実施と進めているわけがございますけれども。私がいつも考えるのは平川のうちにダムが一つ欲しいな、ということがいつも消えないのでありまして、非常に地形的な問題で無理なのかもしれませんが。何かあそこにそれが一つ出来る様なことになれば「浅瀬石川にもダムがある、岩木川にもダムがある、平川にもダムが出来る。」ってなったら下流がほとんど安全になるという様なことを考えております。私ども平川を中心とした防災づくりを重点的に進めているところであります。専用防災倉庫の建築に入りました。それを大きな災害倉庫という、規模を大きく掲げて進めて下さいと指示しております。これからも思わぬ災害がくることは確かだと思っております。意識しながら前進したいと思っております。以上です。

「事務局」

ありがとうございました。

そうしますと、もう一方、お話頂ければと思いますが中泊の横野副町長様。

「中泊副町長」

私も中泊町では今年度、岩木川沿いの集落の避難訓練等を計画しているんですけども、ただ不安に思っているのは、果たして職員がどうスムーズに動けるかというのを非常に不安に思っております。今年度の職員対象にした図上訓練とかですね、そういうものを合わせて行っていかなければならないのではないのかなという風に考えております。

以上です。

「事務局」

ありがとうございました。

青森河川国道事務所長、お願いします。

「青森河川国道事務所長」

やはり、災害の経験がどうしても少ないということできざという時の対応が難しい。訓練もですね、訓練としてやっているとしても切迫性が欠けるところがありますので、私も青森河川国道事務所で一つ訓練、訓練といいますか職員の経験値をなるべく上げるということで心掛けているのは、例えば小規模な雨50ミリとか60ミリとかという雨が降った時にもっと降った時のことを考えた対応を職員にやらせよう。その時がちょうど訓練も兼ねたことをするので。例えば、このポンプ車をここから動かすのに何時間掛かるか、この現地まで行って帰ってくる、それで途中で危ないところがないかというところをあえてですね、動いてもらうということをやっています。

ちょっとした雨、あるいは、ちょっとした地震とかがあったと思いますが、その時にもっと大きな災害になった事を考えて指示をして、それがどういう風な反応かというのを見ているというのが実は一番ちょっと実戦に近いことが出来ますので、少し覚えておいて頂ければなと思いました。

「事務局」

その他、皆様方から何か御座いませんか。

今の小規模な出水などでの対応、やられている方とかおられましたらそういった面での情報提供でもよろしいですし、御座いませんか。

「岩木川ダム統合管理事務所長」

各自治体がいろいろな取り組みをなさっているところを改めて認識させて頂きました。本当にご苦労様で御座います。そんな中で皆様、既に承知のことではあるんですけども岩木川の地形の特徴から言ってですね、上流で堤防が切れたということになった場合に

は拡散型の氾濫形態ですので下流までそれが影響します。平成 27 年の関東東北豪雨の時にも鬼怒川が氾濫しましたが、12 時間経って常総市役所まで氾濫水が押し寄せて確か建設したばかりの市役所庁舎の一階と地下にあった電気設備などが浸水して機能麻痺に陥ったということがありました。ここでも同じ様な地形条件ですのでそういった現象が起きないとも限らないということで御座います。そういった中で市町村の方から御発言がありましたけれども、市町村連携というのがとっても大事なんだということです。岩木川を挟んで左右岸に自治体が分かれているケースも多いわけですけども、自分の地域の中だけで避難計画を作っているかと思いますが、実際洪水が起きた時にはその計画ではもたないという風なことも念頭に置いて頂いて、場合によっては橋を渡って対岸の方に避難を誘導する等ということもシミュレーションの一つに加えて頂ければなと思って御座います。以上です。

「事務局」

ご意見ありがとうございます。その他、御座いませんでしょうか。  
なければ次にうつりたいと思います。

## 2) 今後のスケジュールについて

- 「水防災意識社会」の再構築に向けた緊急行動計画の改定
- 避難勧告等に関するガイドラインの改定
- 「異常豪雨の頻発化」に備えたダム管理上の行動計画

異議なし

「事務局」

これまで今後のスケジュールについて説明させて頂きました。今後のスケジュール関係で御座いますけども資料3に御座います、昨年の西日本豪雨におきまして住人がなぜ逃げなかったのかとかそういったアンケートを踏まえながらですね、様々、こういう部分を取り組んでいったらいいんじゃないかとか、変えていった方がいいんじゃないかとかそういう風な改定の方針が示されております。

そういったところを幹事会でしっかり議論していきたいと思って御座います。

それをまた改めて協議会の方に諮りたいという風に考えて御座います。そういった中でいままでの資料説明の中で「もう少しこの辺、詳しく知りたいです。」とかそういったものが御座いましたら御質問をお願い致します。

「青森市浪岡区長」

うちはこの中でも特殊な立場におりまして、合併で青森市になったのですが天候とかでいいですと青森市の天気予報を見ても実際は役立たないという部分がありまして、逆に弘前を中心とした津軽の天気予報を見ながら実際のところ水位を確認したりとかしているところで御座います。平成 24 年 25 年と続けて下流部が越水したことも御座いまして、実際のところ私も当時総務課長という立場で対応していたところだったのですが、青森市に警報が出た時には、もう既に遅いというところがありましてですね。それで青森市と気象台とはいろいろ情報交換をしているところではあるのですが、状況等について浪岡事務所の方にも情報提供とかして頂ければ助かるなと感じております。平成 24 年の時には実はため池が欠壊して、その欠壊した水が更に浪岡川に流れ込んで更にその水位を上げたという経緯も御座いまして。河川を管理されている青森県さんの方にいろいろ河川の浚渫やら伐木やら、お願いしてやっているところで御座いますが今後とも引き続き宜しくお願いしたいと思っております。

#### 「弘前市総務部防災課長」

今日参加させて頂きまして、取り組み状況の中又は今後の取り組みでということに、皆様防災教育にも力を入れていらっしゃる自治体が多いのかなという風に考えています。防災訓練、いわゆる災害が発災してから対応する様な防災訓練っていうのは特にしなければならぬと思っておりますけれども、災害が少ない現在、災害が起きていない今の時期にどういったことが出来るかという様な取り組みというのが重要だと主に考えておりますので、いろいろなご意見が御座いましたけれどもそういう風な支援をまた継続して頂いてということで御座います。

それから、平成 30 年 7 月豪雨で避難する方が大変少なかったということで 6 月から警戒レベルの 1～5、相当という様な表現で発表されるということもありまして、弘前市の方でも現在の避難基準の中身は変わらないのですが、避難レベルの警戒レベルというのを合わせて発表する様な内容の整理をしているところで御座います。

ですので、やはり避難をして頂くような方が一の時に、そういう風な取り組みというのを協議会の方でどうすればもっと避難する方が増えるのかとかという風なこと、そのためのルールというのにも必要になるのかなと考えています。以上であります。

#### 「黒石市総務課課長補佐」

実際のこの協議会には関係無いかもしれないですけども、気象の観測点ですね。各市町村に設置出来ないものかどうか。

そうすれば、各市町村で雨量計とかそういう全部同じ内容のものを置かせて頂ければもうちょっと情報が得られるのかなと思って、その点を確認したいと思っております。

#### 「気象庁青森地方気象台」

気象庁で展開しているアメダス観測網ということになりますと雨の場合だと 17km メッシュ、気温の場合だと 21km メッシュという考え方といいますか、日本全国をそういうくらいの四角で囲んでいった時にその中で一つ観測データがある様にとということで気象庁でアメダス観測網ということで展開しています。

理想的にはもっと増やせたらいいのかもしれませんが予算と色々なこともありまして今はそのメッシュの観測というものを使って更にスーパーコンピューターを使って大気の状態というのを計算して天気予報をやるといったことになっております。

もっと自分の真上の空の状態を知りたいとか、自分の住んでいるところの気温を知りたいとかそういったご要望があるのは十分承知をしまして、気象庁としましては推計気象分布というメッシュで日本全国の場所の気温とか、天気が晴れたとか雨だとか曇りだとか、アメダスの観測点ではないのですが気象庁のホームページを見ていただくと推計気象分布という分布図がありまして、風速などについて本当の観測所ではないのですが気象庁がいろいろな気象条件から、あとは過去の統計の値とか、そういったところから一番確かであろうその場所の一時間毎の風速を出したりとかして、面的な情報として気象情報、予測情報、実況の情報を出すという取り組みをしております。技術開発を行い、そういった面的なメッシュ情報ということで気象データを提供するという取り組みも強めておりますので、そういったところも利用というのを考えて頂けたらなと思っております。いわゆる気象の産業営業とか生活営業というのは、気象庁だけではなくて民間の気象会社さんも気象観測をしてそこでそのデータを発表する、そういったことが出来ると昔からそういった制度となっておりますのでそういった民間の気象会社さんの利用といいますか、力を使うということも一つの方法かなと思います。

少し長くなりましたが以上です。

「つがる市総務部総務課長」

先ほど藤崎町長さんがおっしゃった、つがる市も市民も職員も「まあ、災害は無いだろう。」という考えが蔓延しておりますので、「本当に災害は来るんだ。」という危機感を持って今後いろいろな対策を立てていけば良い方向に進むと思っておりますので本日はありがとうございました。

以上